

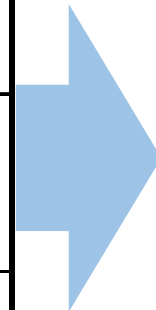
2021年度 ガイドライン評価改善シート

施設名 ( ドリームケアふいる とくら園 ) 作成日時 ( 2022年4月22日 )

代表	施設長	本部
風間	江口	田中

2022年度 改善への取り組み	・「個別化」を意識した支援の徹底・ニーズに合わせたおたよりの作成、発行・保護者会の定期的開催
今年度の施設目標	・環境整備（構造化）・障害特性の理解・衛生管理（感染症対策）・保護者との連携

項目	保護者評価、事業所内評価を踏まえた上での共通点	保護者評価、事業所内評価を踏まえた上での相違点
環境・体制整備	・職員の配置数が適切である	
業務改善	・保護者向け評価表を活用したアンケート調査を実施し、保護者の意向を把握し、業務改善につなげている。	
適切な支援の提供	・子どもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、児童発達支援計画が作成されている。 ・児童発達支援計画の内容は具体的である。 ・児童発達支援に沿った支援が行われている。 ・活動プログラムが固定化しないよう工夫されている。	・支援開始前に職員間で打ち合わせを出来る時と出来ない時がある。支援内容や役割分担については紙面で確認する形ではあるが不十分な部分も多い。 ・支援終了後の打ち合わせや振り返りが十分とは言えない。
関係機関や保護者との連携	・小学校や特別支援学校との間で移行に向けた支援内容等の情報共有は市町を含めて行うことが出来ている。	・市町とは連携できているがその内容をスタッフ間で共有しきれていない。 ・コロナもあり障害のない子どもと活動する機会が設けられていない。
保護者への説明責任等	・児童発達支援ガイドラインに基づき作成された児童発達支援計画の支援内容の説明を行うことができていない。 ・日ごろから、子どもの状況を保護者に伝えあい、情報共有、共通理解ができていない。 ・保護者会の開催ができていない。	・保護者に対して相談は受けているものの家族支援プログラムが行われていない。
非常時等の対応	・緊急時マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定しているが、保護者、職員への周知が不十分である。	・予防接種やてんかん発作等の子どもの状況確認、アレルギーに対する確認が十分に行われていない。



分析検討してみたの事業所の強み
<ul style="list-style-type: none"> <li>児童発達支援計画の作成の際、①アセスメント、②子ども、保護者のニーズや課題の客観的な分析を行うことができています。支援計画の内容は子どもの支援に必要な項目が選択され、具体的な短期目標、具体的な支援内容が記載されている。</li> <li>保護者から相談があった時には随時担当が相談を受ける体制ができています。</li> <li>毎月1回のコンサルテーション（よこはま発達相談室・佐々木先生）を受け、具体的に個別化を行っている。</li> </ul>

分析検討してみたの事業所の改善点
<ul style="list-style-type: none"> <li>参観会や保護者が交流できる機会を設けることができなかった。</li> <li>スタッフ間での情報共有が不十分であった。</li> <li>個別化を全員が理解して行うまでには至らず、支援の統一が難しかった。</li> </ul>

事業所の改善への取り組み
<ul style="list-style-type: none"> <li>個別化に関して、スタッフ全員で考え、情報共有を視覚的に提示して行っていく。実際に行ってみた結果や改善点も時間を設けて検討していき、子どもたちが安心して自発的に行動していける環境を作っていく。</li> <li>参観会や保護者会を企画し、実施していく。</li> </ul>

自己評価を行ったの事業所としての感想など
<ul style="list-style-type: none"> <li>みんな一緒ではなく、個々に合った支援の仕方を見つけていくこと、好きなことを見つけていくことが子どもたちの安心・成長に繋がると改めて感じた。</li> <li>職員間で話す時間を大切にし、コミュニケーションを取っていくことで職員も働きやすい環境作りをしていくことが支援の統一に繋がると感じた。</li> </ul>

来年度の施設目標	・「個別化」した支援の統一 ・保護者との連携
----------	------------------------